

オンラインレッスンにおける一考察

— オンラインレッスンと対面レッスンの実態とともに —

吉 川 絢 子

1 はじめに

2020年(令和2年)4月から、新型コロナウイルス感染症拡大により、緊急事態宣言が発令された。飛沫感染の危険性から大学の授業は対面による指導が困難となり、オンライン化が必須となった。本学でも、音楽ベーシック(ピアノ弾き歌い)の授業がオンライン化を余儀なくされた。そのため、本来であれば、ピアノのレッスンは対面による指導が最も有効であるが、オンライン上でも対面指導に近い成果を得られるよう試行錯誤を重ねた。本稿では、オンライン上でピアノのレッスンを行う上での問題点と、その改善策を実践的な方法に基づいて記述する。また、2022年度(令和4年度)に音楽ベーシックの授業を受けた学生は、前期はオンラインレッスン、後期は対面レッスンという特異な形態で授業を受けた学生たちである。その学生たちにアンケートを実施し、オンラインレッスンと対面レッスンの両面の実態をまとめたい。

2 オンラインレッスンにおける問題点とその改善方法について

本授業では、主にWeb会議サービスZoomを使用しオンラインレッスンを行った。オンラインレッスンにおいての問題点は、大きく以下の3つが考えられる。

- ①回線の安定性
- ②画角調整
- ③指導が伝わりにくい

まず、一つ目の「回線の安定性」だが、Zoomでの回線状況が不安定になることは、筆者の場合それほど多くはなかったと言える。し

かし、こればかりは各々の回線状況によるものなので、形容しがたいのも事実である。それでも、稀に回線状況が不安定になり、レッスンを継続することが困難になった場合は、Zoomで他の学生たちと繋ぎつつ、問題が生じた学生とは別端末でモバイルメッセージアプリケーションLINEのテレビ電話を使用して対応した。

二つ目の「画角調整」において、学生と教員の両者が抱える最も大きい問題点は「ピアノを弾いている手元が見えにくい」ことであろう。筆者は、画面を通して見る教員の手元は、学生が普段ピアノを弾く時と同じ目線で見える方が分かりやすいと考えた。また、手元だけにならず筆者の表情や反応も見えるよう考慮した結果、写真1のような画角でレッスンを行った。これについては、学生にも授業開始の挨拶の際には顔が見えるように、レッスンが始まってからは手元が映るように画角を調整するよう促した。

最後の「指導が伝わりにくい」ことだが、オンライン上では意思疎通が対面よりも図りにくく、学生が理解をしていない場合でも教員側が一方的に指導を進めてしまう可能性が大いにある。また、写真1の画角でも、学生がスマートフォンで授業を受ける場合、画面が小さく手元が見えにくいことも考えられる。そういった場合に備えて、あらかじめ課題となっている曲を、より手元が見えやすい画角で撮影し(写真2)、その動画を必要に応じて学生に送りレッスンを進めていった。また、楽譜の説明や特定の箇所を指して細かい指示をする際には、事前にスキャンした楽譜をZoomの画面共有の機能を使



写真1



写真2

用して共有し、リアルタイムで楽譜に書き込むことによって、より確実に学生に伝わるようにした。(写真3)

3 オンラインレッスンと対面レッスンの実態

筆者が2022年度(令和4年度)に受け持った学生10名に対して、オンラインレッスンと対面レッスンに関するアンケートを無記名で行った。この学生たちは、先述の通り前期はオンラインレッスン、後期は対面レッスンという特異な形態で授業を受けた学生たちである。本稿の項目2において、オンラインレッスンにおける問題点とその改善方法について述べたが、学生たちが感じるオンラインレッスンにおける問題点も「通信が悪い場合がある」「直接教えてもらえない」「ピアノ(手元)の映し方が大変」といった酷似する内容であった。その他に「家

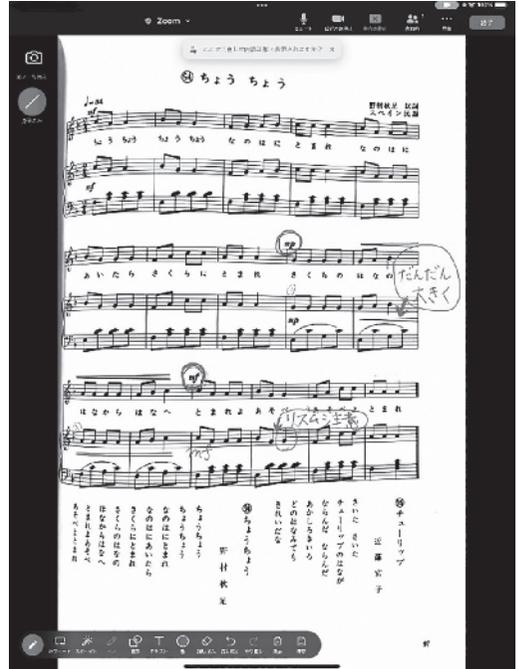
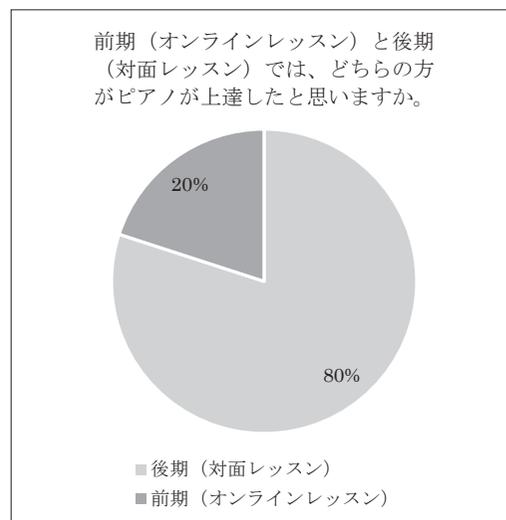
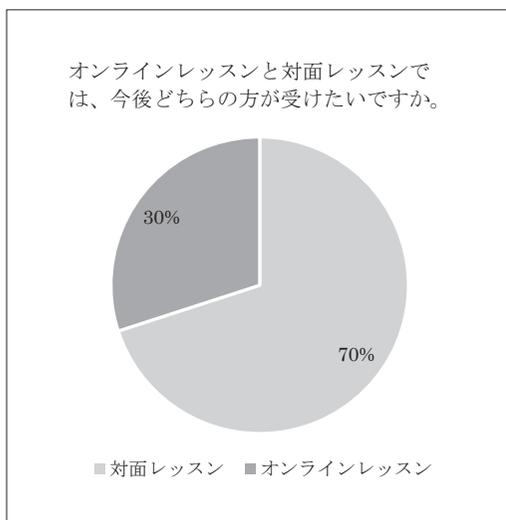


写真3

族に聞かれて恥ずかしい」という意見もあった。その反対に、オンラインレッスンの利点は「直前まで家で練習できる」「対面より緊張しないので普段通りに弾ける」との意見も挙げた。次に、対面レッスンにおける問題点と利点を聞いたところ、問題点は「登校すること」と答えた学生が最も多かった。また、「特になし」と回答した学生もいたため、実質的な問題点は少ないように感じる。しかし、極少数ではあるが「緊張して上手く弾けない」と答えた学生もいた。対面レッスンの利点については「間違いをその場で指摘してくれるので、すぐに直せる」「オンラインよりも先生の反応を見れて良かった」「近くで細かい指導が受けれるので分かりやすい」という意見が挙げた。また、「オンラインレッスンと対面レッスンでは、今後どちらの方が受けたいですか。」との問いに対して、7人が対面レッスン、3人がオンラインレッスンという結果となった。

その理由として、対面レッスンと答えた学生の多くが対面レッスンでの利点と同じ回答を挙げていた。オンラインレッスンと答えた学生の



うち、2人はオンラインレッスンの利点にあった「対面より緊張しないので普段通りに弾ける」との回答で、もう一人は「オンラインレッスンでも対面レッスンと変わらず分かりやすく、それなりに弾けていたと感じるから」という回答であった。最後に、「前期（オンラインレッスン）と後期（対面レッスン）では、どちらの方がピアノが上達したと思いますか。」との問いに対しては、8人が後期（対面レッスン）、2人が前期（オンラインレッスン）という結果になった。

理由としては、これも先述の通り各々の利点が挙げられていたが、後期（対面レッスン）と答えた理由に「練習時間やピアノを触る時間が増えたから」と答えた学生が数名いた。前期（オンラインレッスン）と答えた理由としては、やはり「緊張しないから」というものであった。

4 おわりに

本来であれば対面授業が望ましいピアノのレッスンではあるが、オンライン上でも対面指導に近い成果を得られるよう模索した結果、オ

ンラインレッスンと対面レッスンの両方を受講した学生の中から「オンラインレッスンでも対面レッスンと変わらず分かりやすい」という意見が得られた。このことは、筆者にとって今後のオンラインレッスンの可能性を感じられる結果ともなった。また、「緊張しない」という意見については、ピアノが上達する上で「緊張すること」は決して悪い面ばかりではないと考えられるため、一概に利点とは言い難いが、学生の気持ちに寄り添うことも大切であると実感した。一方で、通信環境などの問題点は依然として課題に残ることも分かった。新型コロナウイルス感染症の収束後は、対面による授業が復活し、ピアノのレッスンも本来の対面レッスンへと移行した。今後は、以前のような対面レッスンの方法だけに留まらず、必要に応じてオンラインレッスンの利点も取り入れつつ多角的な視点で授業を進めていきたいと思う。

参考楽譜

小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、1975. 239p.